

<背景>

近年、優れた頭脳の獲得競争が世界的に激化してきている中で、我が国が科学技術の力で世界をリードしていくためには、優秀な人材の世界的な流動の「環」の中に位置づけられ、内外の研究人材が自然に蓄積されるような研究機関を我が国にも作っていくことが必要。

<事業概要>

世界的な著名研究者を拠点長として責任者に位置付け、その下に高いレベルの研究者が結集する、優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点を形成する。

<世界トップレベル研究拠点の拡充>

環境分野の技術革新で世界をリードし、低炭素社会を実現する観点から、新規に九州大学の「カーボンニュートラル・エネルギー研究拠点 (Carbon-Neutral Energy Research Institute)」を採択した。

<取組内容>

- 対象
 - ・基礎研究分野
- 期間
 - ・10～15年
- 支援額
 - ・1拠点あたり約14億円／年
- 研究拠点のイメージ
 - ・世界トップレベルの主任研究者10～20人
 - ・総勢200人
 - ・研究者のうち30%以上は外国人
- 国際水準の研究環境と生活環境
 - ・拠点長の強力なリーダーシップ
 - ・厳格な評価に基づく給与
 - ・言語は事務部門も含め英語

(平成19年度採択5拠点)

京都大学
物質-細胞統合システム拠点
(iCeMS: Institute for Integrated Cell-Material Sciences)
— 幹細胞とメソ制御による細胞科学と物質科学の統合領域の創出 —



拠点長: 中辻 憲夫

日本で唯一ヒトES細胞の樹立に成功し、再生医療分野に大きく貢献

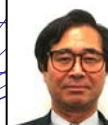
東北大学
原子分子材料科学高等研究機構
(AIMR: Advanced Institute for Materials Research)
— 原子分子制御法を駆使した革新的な物質創製とデバイス・システムの構築 —



拠点長: 山本 嘉則

有機化学の国際的権威で、独のフンボルト賞を受賞

物質・材料研究機構
国際ナノアーキテクトニクス研究拠点
(MANA: International Center for Materials Nanoarchitectonics)
— ナノアーキテクトニクスに基づく持続可能な発展に資する材料の開発 —



拠点長: 青野 正和

脳型コンピューターへの応用が期待される革新的新材料について、世界で初めて開発に成功

大阪大学
免疫学フロンティア研究センター
(IFReC: Immunology Frontier Research Center)
— 生態イメージング技術を用い、動的な免疫系の解明 —



拠点長: 審良 静男

5年連続論文被引用数が世界一の免疫研究者

東京大学
数物連携宇宙研究機構
(IPMU: Institute for the Physics and Mathematics of the Universe)
— 数学、物理学、天文学の連携による宇宙の起源と進化の解明 —



拠点長: 村山 斉

日本人の素粒子理論・初期宇宙論で45歳にして論文被引用総数世界一